七宗町立七宗中学校　学校だより
2026.10.30発行

しゃくなげ

学校の教育目標　志をもち 仲間とともに創りだす生徒

七宗中HP（PW付）で団結祭の様子を紹介しています。

「たくましさを育むサイクル」を校風に

校長 福井敏彦

10月に入って晴天が続く中、唯一団結祭当日午前だけ雨となり、やむを得ず順延しました。翌日開催でも生徒は集中力を切らさず素晴らしい団結祭を創りあげました。

「地域とともにある学校」に感謝

「やむを得ない。順延で。」雨予報が一向に変化しない週間天気予報を見ながら、順延を判断したのは団結祭前日の朝でした。岸PTA会長さんにその旨をお伝えすると「もう少し待ちましょう」とのこと。その後何度か岸会長さんとやりとりし、最終的に「当日朝8時判断」という異例の最終判断時刻となりました。

都市部の中学校なら前日朝の判断ですぐに決まったかもしれません。「順延すると参観が叶わない保護者が多いこと」を把握し、ギリギリまで当日開催を探った岸会長さんの助言は「地域とともにある学校」の証です。生徒の成長を日々見守っていただいていることに改めて感謝です。

ギリギリの判断となっても生徒の心の準備は見事でした。特に3年生は順延によって入れ替わった単元テストにも集中して取り組んでいました。泰然自若の姿に感心しました。

団結祭取組で育まれる「たくましさ」

限られた短い取組期間だからこそ、精神的にも体力的にも、驚くほどたくましくなりました。

運動が得意な子ばかりではありません。大縄跳びの取組で何度もひっかかり、いやな思いをした生徒もいたことでしょう。素晴らしかったのは、失敗を他人のせいにする声が聞こえなかったこと。回し手はどうしたらみんなが跳びやすくなるか回し方を考えました。跳ぶ側は、誰がどの位置にいたら跳びやすいのかアイデアを出しました。そして、体力の続く限り、繰り返し練習しました。連続の最高記録が出たときは自然と拍手がおこり、一体感が生まれました。

課題を他人事ではなく自分事として考え、一人一人が自分のできる精一杯の力を出し切った姿は、まさに七宗中が願う「志をもち仲間とともに創りだす生徒～自律・協働・挑戦～」の姿です。

「たくましさを育むサイクル」を校風に

「団結祭の財産を生かしましょう」よく使う言葉ですが、簡単なことではありません。ゴールがはっきりしている短期間の取組に比べ、日常にはゴールがないため向上意欲の継続が難しいのです。

そこでポイントとなるのが「節目」です。その一つが「公開授業」。10月は1年生道徳（裏庭での出来事）、2年生家庭科（リフォーム発表会）、3年生国語（複数の意見を読んで考えよう）がありました。日頃の授業で身に付けた見方・考え方を生かして、粘り強く課題追究し、互いの考えを精一杯表現する姿がみられました。また「生徒総会」もその一つ。あいさつの向上を提案した執行部は、翌日から早めに登校し、仲間に進んであいさつをしています。その成果も出つつあるようです。

「たくましさを育むサイクル」が回り始めています。七宗中のよき校風となりそうです。